

【本文】

身分(高)
あま一人↑兼好がさぞわれる。

兼好
(私は)

受身 謙譲語

夜か

九月二十日のころ、ある人に誘はれたてまつりて、明

歩く 丁寧語(読者↑兼好) (あま一人か)

くるまで月見ありくことはべりしに、おぼし出づる所あ

使役 尊敬(あ↑兼) 過去(い)

尊敬語(あま一人↑兼好)

りて案内せさせて入りたまひぬ。完了

存続 断定打消

荒れたる庭の露しげきに、わざとならぬにほひ、しめ

存続

やかにうちかをりて、しのびたるけはひいともものあはれ

なり。

(あま一人) 時間

尊 (あ↑兼) 完了

(私は)

よきほどにて出でたまひぬれど、なほ事さまの優にお

存続

ぼえて、物のかくれよりしばし見みたるに、妻戸をいま

断定 有るに

少し押し開けて、月見るけしきなり。やがてかけこもら

反実仮想

「可惜し」物足りない

反語 推量

(…でなかつたからうでなかつた。)

あとまで見る人ありとは、いかでか知らん。かやうの

日頃のいかに

推量

ことは、ただ朝夕の心づかひによるべし。

どうして知ってしようか、いや、知らない

聞きなく

完了(高) 去

(読↑兼)

丁寧(高) 去

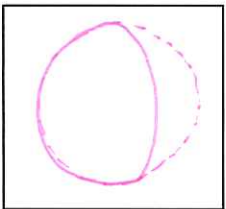
その人、ほどなく失せにけりと聞きはべりし。

【読解】

九月二十日のころ

* ()には人物(その人/ある人/兼好)
()には適切な言葉を入れましょう

●九月二十日の月:(午後十時頃)明け方



ふけまちがき
更待月

ある人:兼好より身分が(高い)

根拠 ↓ 誘はれたてまつりて (謙譲語)

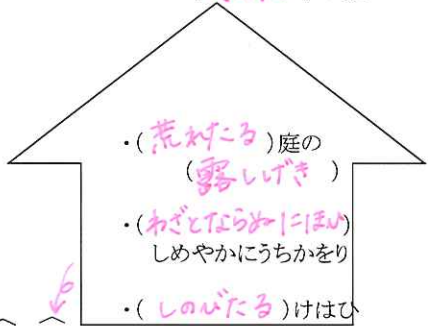
おぼし出づる所ありて (尊敬語)

出でたまひぬ (尊敬語)

兼好の感想

(いとものあはれなり)

おぼし出づる所
=その人の家



ある人 ↓ よきほどにて出でたまひぬ

(兼好) (なほ身ぶまの優におぼえて)

↓物のかくれよりしばし見あたる

(その人)

妻戸を押し開けて、
月見るけしきなり

かやうのこと:朝夕のいづかひ

(あともで見る人あり) (いかにでか知らん)

やがてかけこもらましかば、
(くちせしからまし)

●後日談

(その人) (兼好)

ほどなく失せにけり ↓ 聞きはべりし